ねまってジャーナル

2022
-夏～秋号-
盛岡市 農政課
協力隊発行

今年は雨が多く夏らしい日が少なかったですが、そんな中でも我々は元気に活動してまいりました。育児休暇中の高橋隊員には第一子が誕生し、池内さんはご懐妊されるなど微笑ましい報告もあり、ますます賑やかになった(!?)私達の活動をご報告します！

【大人も子供も楽しい学びの場づくり】

娘が生まれて早くも6ヶ月が経ちました。日に日に出来ることが増えていく娘の姿を見て、子どもの成長力とエネルギーにいつも驚かされています。また、普段行き慣れた場所でも、子どもと行くと新しい発見があります。今後は、子どもと一緒に改めて簗川の魅力を深掘りしていきます。

簗川に来て、私は「自然の美しさ」と「丁寧に手作りする楽しさ」を知りました。娘にもぜひ同じ体験をしてほしいと思っています。自然と触れ合い季節の移ろいを感じる、自分で畑で野菜を育てて食べてみる。自分が子どもの頃にはなかった環境をとても羨ましく思います。

最近、娘を通じて子育て世代の方々とお話する機会が増えました。子どもはもちろん、親御さん自身も子どもと一緒に色々な体験をして学びたいと考えている方が多くいらっしゃいます。大人も子どもも楽しく遊び学べる場を簗川でつくっていきたいです。（高橋　佑未）

⬆牛さんとのふれあい

【マンダノキの活動について】

蒸し暑い日々が続き、気が付いたら家の前をたくさんのトンボが飛び交う季節になりました。春の田んぼの種蒔きから始まり、田植え、草刈り、りんごの摘果、きゅうりの作業などお手伝いさせてもらっています、協力隊大ヶ生担当の山代です。

今回は今年の春から少しずつ進めている「マンダノキ」の活動について紹介させて頂きます。マンダノキとは正式名称を「しなのき」という樹木で、梅雨時期に樹皮を剥ぎ取ることができます。今のように化学繊維が普及していなかった時代、ケラ（雨具）やロープ、山仕事のカバンなどを作るのにその樹皮が用いられてきました。僕の暮らす大ヶ生地域でも、かつてマンダノキを使ったものづくりが行われていたことを知り、それにならって現代でも山の素材を使ったものづくりができないかと考えています。7月、あるお宅のお庭に生えていた木を切らせて頂き、数人でその樹皮を剥ぎ取りました。秋に薪ストーブの灰と一緒に煮詰めて、硬くしなやかな木の繊維を取り出し、それらを使って冬に縄やカバンを試作してみる目標です。「環境に優しく」という言葉がよく聞かれる昨今ですが、地域の中にある「素材」を使って昔のように生活のための道具をつくれたら…次回のねまってジャーナルで経過報告できるように地道に頑張りたいと思います。（山代　森）

⬆マンダノキでできたケラ

⬆幹から樹皮を剥いだ状態

⬆マンダノキ

【残り一年で何を残せるか】

最近は盛岡でもクマの市街地への出没や、イノシシの生息域拡大などが起きており、今まで以上に野生動物と人の関わり方が問われる時代になったと実感しています。

さて、各地の鳥獣被害対策の現場では、人手不足という問題に必ずと言っていいほどぶち当たっています。それは盛岡でも例外ではありません。そこで、試験的に大ケ生の地元の有志の方々に捕獲活動に参加できるハンターを目指してもらい、捕獲に関われる（協力できる）地元の方々を増やす、という試みを行っています。

また、地域の被害の実態を正しく把握して捕獲以外の手段を使った効率的な対策も行えるよう、岩手大学の学生さんたちと協力して鳥獣被害対策のアンケートを作成し、大ケ生地域に配布しました。この記事を書いている段階ではまだ回収していませんが、どんな結果になるのか楽しみです。協力していただいた皆様、本当にありがとうございます。このアンケート結果を踏まえて、どんな対策を行ったらいいのかを地域の皆様とこれから考えていきたいと思っています。引き続き応援とご協力のほどよろしくお願い致します。（知念　侑希）

⬆旧都南村地域で捕獲されたイノシシ

【春から夏にかけて】

4月から集落支援員として活動を始め、5月の連休に絵の展示を中心としたイベントをこあらかまどの曲り家で一週間開催しました。そのイベント以降、整体とヨガ教室を開催していて、今後も継続する予定です。

6月には協力隊の知念くん山代くんと3人で大ケ生をテーマにした冊子作りを始めました。第一号目はよもぎ餅をテーマにしました。大ケ生で体験してきたことを写真と文章で形にしたいとずっと考えていたので、今後も様々なテーマで発行を重ね、最終的には本としてまとめたいと思っています。

一昨年・昨年に引き続き、大ケ生のブルーベリーを活用する活動をしています。大ケ生の3軒のお宅でブルーベリーを収穫させていただき、ブルーベリーのかき氷用シロップを作り（今年は大ケ生のハスカップも急遽使わせていただきました）、出張かき氷店を開きました。大ケ生金山の里生産組合　無人販売所の隣の敷地で開店した他、津志田にある都南こどもの家でこどもたちのおやつの時間に出張もして大好評でした。

7月に大ケ生の地域資源についてのアンケートを全戸配布させていただきました。ご協力ありがとうございました。今後の活動に大いに活用させていただきたいと思っています。（富岡　美恵）

⬆大ケ生のブルーベリーを使ったかき氷

⬆大ケ生をテーマにした冊子

【もうすぐ…第三形態に変化します】

岩手県に移住して5年経ち、その中で私の暮らしにさまざまな変化がありました。盛岡市地域おこし協力隊として2017年に大ケ生に住み込みを始め、里山・中山間地域での暮らしを体験し自然との共生を目の当たりにしました。

東京暮らしですと自然が枠の中、定められた場所の中に存在し日常生活とは切り離されたような状態です。岩手で暮らし続けていく未来を考えると、自分が体感した「自然と共生」すること「暮らしの利便性」を見極めることを真摯に考えて次の世代へ伝えていくことが自分ができることなのかなと思います。10月に子供が生まれる予定で東京の実家に里帰り中なので、いろいろなことを考えさせられています。これからも微力ではありますが、大ケ生、中山間地域の今後を考えて活動をしていきたいと思いますので、一緒に活動できることを願っています。（池内　絵美）

⬆出産のため故郷へ里帰り中

ねまってジャーナルは盛岡市農林部農政課所属の協力隊と協力隊OG、集落支援員が共同で発行しています。